



2020 デュアスロンチャレンジ in 日産スタジアム

選手とTO（公認審判員）、それぞれのチャレンジ

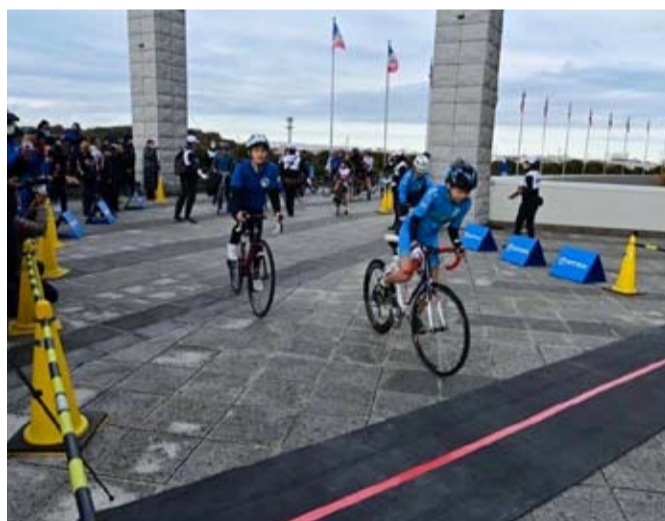
審判長 三井 はるみ

日産スタジアムの外周コンコースでバイク、そしてスタジアム内 400 mトラックでランの大会を行いました。本大会は小中学生や初心者を中心とした着順を付けない記録会の位置付けで行い、選手はバイクのローリングスタート方式、コロナ対策、終了後のセミナー他多くをチャレンジしました。小中学生には自己責任を自覚するスポーツマンとしての行動を、焦らず落ち着いてチャレンジ出来るように気を配りました。また大人も子供もこの経験を将来活かせる学びの要素を重視し、特にルール違反、例えばドラフティング禁止は、TOは声掛けに留めペナルティは取らないが悪質な場合は競技終了後に選手に注意する、など基本的には優しく接するが危険行為については指導することを徹底しました。

コロナで大会中止が相次いだ事と、普段立ち入ることが出来ないスタジアム内トラックで走ることも相まったようで、大いに楽しみました。来場者全員のコロナ感染対策を出来る限り行い、事前配布の選手説明動画でも徹底的に周知し、小学校低学年の選手も自分だけでちゃんとアンクルバンド付け外しとマスクの管理が出来ていました。一方でコロナ以前に採用する事が多かった輪ゴムでのラン周回数管理を廃止した影響なのか、周回数が足りないままフィニッシュする選手が続出してしまいました。通常の大会ならDNFですがここはチャレンジ記録会ということで、アンクルバンド計測担当からその都度足りない選手に特別に伝えてもらい完走することが出来ました。次の大会では自分でちゃんと数えて無事にフィニッシュして欲しいです。選手は日頃の練習の成果を思い切り発揮するだけでなく、他者と非接触の必要に迫られ、自分自身で競技をやり遂げる大切さを思い知る良い機会でもあったのではないのでしょうか。そしてコロナという種目が増えたようなものですから、これからは前にも増して早め早めの行動を心がけましょう。

運営側も数々のチャレンジをしました。その一つ計測マット1枚だけをバイクとラン両方で使い回す試みは、全員がバイク競技をスタート～終了後に計測マットを400mトラックのランフィニッシュ地点に運び込み、そしてカテゴリ毎のランスタートに設定しました。これは通常と異なる形態にはなりますが、計測マットはたった1枚でも工夫次第で行えるという良い経験になりました。

こうして数々のチャレンジを経て大きなトラブルと事故もなく終わらせる事ができました。まだまだコロナの心配はつきませんが、選手の皆さんと我々TOも引き続きチャレンジし楽しんでいけたらと願ってやみません。



.....